

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 02145498 A

(43) Date of publication of application: 04.06.90

(51) Int. CI

C30B 29/32 C30B 1/02

(21) Application number: 63297844

(22) Date of filing: 25.11.88

(71) Applicant:

MURATA MFG CO LTD

(72) Inventor:

TAKAGI HIROSHI MORI YOSHIAKI **SAKABE YUKIO**

(54) PRODUCTION OF BARIUM TITANATE SINGLE **CRYSTAL**

(57) Abstract:

PURPOSE: To make possible to industrially produce single crystal by mixing specific amount of oxide of Mg. Mn or Ni, etc., into barium titanate raw material, molding to consolidated material and burning.

CONSTITUTION: For instance, BaCO₃ TiO₂ of ≈99.95% purities are mixed so as to form BaTiO₃. At least one of MgO, MnO, NiO, Co₂O₃, Fe₂O₃,

Cr2O3 and ZnO is added to 100mol said BaTiO3 raw material so as to be 0.25-1.5mol of said additive, as a shape of oxide, carbonate or chloride of \$299.5 % purity. Said materials are mixed in a polypot mill using agate balls and calcined at about 1100°C for about 3 hour, then calcined powder is molded under a pressure of about 2500kgf/cm2 to obtain consolidated material, thus burned at about 1400-1450°C. By said method, single crystal having ${}_{\underline{\sim}} 1 \text{mm}^3$ size is able to be grown in good reproducibility.

COPYRIGHT: (C)1990,JPO&Japio

⑩日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公開

[®] 公 開 特 許 公 報 (A)

平2-145498

@Int.Cl.5 C 30 B 29/32

識別記号

厅内整理番号

匈公開 平成2年(1990)6月4日

8518-4G 8618-4G

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

図発明の名称

チタン酸パリウム単結晶の製造方法

②特 願:昭63-297844

20出 頤 昭63(1988)11月25日

個発 明者 木

1/02

京都府長岡京市天神2丁目26番10号 株式会社村田製作所

個発 明 森 朗

京都府長岡京市天神2丁目26番10号 株式会社村田製作所

内

伽発

行 雄 京都府長岡京市天神2丁目26番10号 株式会社村田製作所

勿出 願 人

四代 理 人

株式会社村田製作所

弁理士 筒井 秀隆

京都府長岡京市天神2丁目26番10号

1、発明の名称

チタン酸パリウム単結晶の製造方法

2. 特許請求の範囲

チタン酸パリウム原料 100モルに対し、 Mg0. MnO, NiO, Co.O., Po.O., Cr.O. 又はZnO のうち 少なくとも1種類をその合計量が0.25~1.5 モル になるように抵加し混合する工程と、抜混合され た原料を圧密体に成形する工程と、数圧密体を説 成する工程とを含むチタン酸パリウム単結晶の製 造方法。

3. 発明の砕細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明はチタン酸パリウム(Balios)単結晶の製 造方法に関するものである。

〔従来の技術〕

チタン酸パリウムセラミックスは、誘電体材料 や無電体材料として電子工業の分野で広く利用さ れている。

チタン酸パリウムセラミックスは、チタン酸パ

- 1 -

リウムの微粉末を成形・焼結させて得られた多結 晶体であるが、セラミックスに比べて単結晶は結 晶方位が一定方向にそろっているため、一般に性 能指数が高い。チタン酸パリウムにおいても、セ ラミックスの形態で利用するよりも単結晶の形態 で利用した方が誘電率や魚電係数を高くすること ができる。

従来より知られているチタン酸パリウム単結晶 の製造方法としては、KP. NagCOs, KC & または BaCl:などの溶剤を用いた溶液法がある。即ち、 チタン酸パリウム原料に上記の熔剤を添加し、る つぼ内で溶触した後、1~2日間冷却してチタン 酸パリウム単結晶を育成させ、その後、同時に固 化した溶剤を酸性溶液などで溶解させて除去し、 チタン酸パリウム単結晶を取り出す方法である。 (発明が解決しようとする課題)

しかしながら、上述の製造方法の場合には、チ タン酸パリウムセラミックスを製造する方法に比 べて操作が複雑で、長時間を必要とし、また得ら れた単結晶の品質も安定させ難いため、工業的に

は利用されていない。

そこで、本発明の目的は、工業的に利用可能な チタン酸パリウム単結晶の製造方法を提供することにある。

- (課題を解決するための手段)

上記目的を達成するために、本発明のチタン酸 パリウム単結晶の製造方法は、チタン酸パリウム 原料 100モルに対し、 MgO. MgO. NiO. CogO。 FogO。 CrgO。又はZnO のうち少なくとも 1 種類をその合計量が0.25~1.5 モルになるように添加し 混合する工程と、該混合された原料を圧密体に成形する工程と、该圧密体を娩成する工程とを含む ものである。

(作用)

即ち、チタン酸パリウム原料に微量の添加物を加えることにより、従来のセラミックスと同様の製造方法によって単結晶を得ることができる。添加物の量を0.25~1.5 モルの範囲に限定した理由は、添加量がこの範囲外になると、圧密体を焼成しても育成される単結晶が微細であり、セラミッ

・ 本発明にかかるチタン酸バリウム単結品の具体 的製造方法を説明する。

まず、純度99.95 %以上の8aCO。および710。を
BaTiO。となるように調合し、8aTiO。原料・100モル
に対して、MgO、MnO、NIO、Co。O。、Fe。O。、Cr。O。
又はZnO のうち少なくとも1種類をその合計量が
0.25~1.5 モルになるように、純度99.5%以上の
酸化物、炭酸塩又は塩化物の形で添加し、メノウボールを用いたポリポットミル中で混合した後、
T100でで3時間仮焼した。得られた仮焼物を2500
kgt/ca。の圧力で成形し、直径10mm、厚き1mmの
大きさの圧密体を得た。この圧密体を51C を発熱
体とする電気炉中で1400~1450でで焼成した。な
お、昇温速度及び降温速度は50~500 で/hの範囲
に設定した。そして、得られた焼成物を反射顕微
銃で観察し、結晶の大きさを測定した。

測定の結果、 MgC, MnC, NiO, Co.O., Pe.O., Cr.O. 又はZnO のうち少なくとも1種類を合計量

- 3 -

0.25~1.5 モル添加した場合には、1 am 3 以上の大きさの単結晶が再現性よく育成され、最大のものは圧密体焼成物の全ての部分が1 つの単結晶 (約50ma 3) となった。一方、上述の酸化物の添加量が0.25~1.5 モルの範囲から外れると、圧密体焼成物は1 am 3 未満の単結晶粒子の集合体からなるセラミックスとなった。

(発明の効果)

以上の説明で明らかなように、本発明によればチタン酸パリウム原料 100モルに対し、Mg0, Mn0, M10, Cor0s, For0s, Crr0s又は2n0 のうち少なくとも1種類をその合計量が0.25~1.5 モルになるように抵加し、抵加された原料を圧密体に成形した後、焼成することにより単結晶を製造するようにしたので、セラミックスと同様の製造方法によって単結晶を得ることができる。つまり、従来の溶液法に比べて操作が簡単で、短時間に製造でき、しかも得られた単結晶の品質を安定させやすいため、工業的に利用可能性の高い製造方法を実現できる。